



### 第25回協同組合まつり 10月28日(日) 新潟市産業振興センターに2万人が来場!!

国際協同組合年の本年、新潟IYC実行委員会に名を連ねる事となったワーカーズコープ北陸信越事業本部では、初めて毎年開催されている協同組合まつりへブース出店のお誘いがあり、協同組合の一員として新潟エリアとして出店するに至りました。

新潟エリアでは、7月から実行委員会を結成し、サポステやまめこころ、児童館・子どもひろばの職員の有志が集まり、話し合いを続け、内容についても全て自分たちで考え、議論しながら当日を迎えました。



当日は、豆腐工房まめこころの豆腐が毎年人気の「味噌汁セット」の具材として使用された他「豆乳どら焼きづくり体験」と子育て現場の組合員が中心となって「親子あそびブース」を開きました。来場者の大多数を占める、NHKのキャラクター目当ての親子連れからも大人気で、ブースも満員状態となりました。



また、スタッフだけでなくサポステを利用する若者や職員の家族も参加する等、様々な人が協力し合う姿や、ブースを訪れたお母さんが児童館に興味を持ち、職員と子育てで支援について話し込む姿も見られるなど「ワーカーズコープの取り組みの発信」という当初の目的を果たした充実した機会となりました。

### いどうじどうかん in 松本 10月28日(日) ショッピングモールで480人が参加!!

紙芝居一座との出会いから、地域の子どもたちが楽しめる「いどうじどうかん」を松本事業所の若手組合員を中心に実行委員会を結成し、社会連帯企画として実施しました。



当初、社会連帯活動として基金を活用して実施しようと考えていたが、資金が足りず、皆で協賛金を集めようということになり、児童館の職員が体当たりで営業活動を実行したところ、地域の様々な方たちから**15万円もの協賛金を集め切りました**。伊藤所長は、「みんなの気持ちが地域につながった」とこの取り組みの意味を総括します。最初は、なかなか営業に足が向かなかった組合員も「誰かが頑張っているから私も・・・」と仲間意識の向上する姿がまさに成長そのものであるとも言及しています。



当日は、460人を超える親子連れが「笑い」に包まれる幸せな時間を過ごす姿から、職員もこれまでの苦労も洗い流される思いだったようです。**児童館という狭い枠を超えて、地域に目を向けた今回の取り組みは、ワーカーズコープが目指す社会連帯の取り組みそのものではないでしょうか?**通常業務に留まらない、自発的な実践に大きな価値を感じる取り組みでした。

### ブロック所長会議 越後湯沢東映ホテル 10月19日(土)~20日(日) 22名参加



2日間に亘り合宿形式での会議を開催し、組織全体が抱える経営危機についての現状認識と全組合員経営の実現に向けた議論、全国的に広がりを見せている生活困窮者や就労困難者の自立・就労支援の取り組みの共有と事業本部全体の下半期方針を確認し合う場面となりました。

委託や指定管理に多くを頼る経営構造となっている北陸信越事業本部として、地域で持続可能な経営基盤をどう創っていくのか? 1人1人が意識して考えていく(全組合員経営)仕組みはどう創られるのか? 真剣な議論が交わされました。現場でもこの会議の内容を共有し、皆で議論し合うところから始めてみてください。そして発信にも! 期待しています!!

#### 事業本部下半期重点方針

- ① 経営改革の貫徹: 総務経理センターの業務改革から全ての事業所の実態把握(監査)と業務マニュアル作成による足固めへ
- ② 社会連帯活動への挑戦: 仕事をおこす以前の「周囲の様々な人たちとつながる」取り組みから共感者を生み出す実践へ
- ③ 地域の最も困難な事態への挑戦: 全エリアで生活困窮者・障がい児・廃校・放棄地活用への模索をスタートさせる

以上3点を下半期方針の統一テーマに据えて、取り組みを推進していく予定ですので確認・共有をよろしくお願いいたします。

仕事に恋してる・・・やらされているのではなく、突き動かされるように自然と体が動く。時には口が開く。人に話したくてしようがない。協同労働を伝え、人と繋がり地域と繋がり、いろいろな人たちとの輪が大きくなっていく。知らない人にでも伝えられるのも、協同労働を全国の仲間が広めてくれるからだに感謝している。

→ 自然と、誰かに指示・命令を受けて仕事をする事に慣れてしまっている私たちにとって、協同労働という仕組みに、試されているのかもしれないですね・・・その気付きが生まれにくい中で、仕事に恋しているとはなかなか言えたものではないですよ。もっと多くの人にその実感を伝えていく伝道師としての役割に期待大です！！

## 週報・月報からの気付き・・・



夏休みが終わって、やっと話し合いの時間がゆっくりととれるようになり、話さなければいけないことが沢山たまっていたので、団会議の時間を早めるなどして、時間を作りました。普段なかなか話せる時間が作れないので、団会議は本当に大切だなと実感します。

→ 子どもたちの全開MAXの元気に寄り添っていた夏も終わって一段落ですね・・・普段、様々な事に追われながら業務を「こなす」事も大切ですが、常によい仕事を追求する事は忘れてはならない大切な事ですよ・・・自分たちの意見と外部からの意見を受け止めた上で初めてよい仕事・現場づくりにつながります。忙しい時こそ「初心、忘れるべからず」ですね・・・

運動会間近の1週間は学校で緊張した分、クラブに来てストレスを発散する子どもも多く、喧嘩やトラブルも多かった。児童クラブは子どもたちのはげきとしての役割も果たしていると思う。また、地域の方たちからも温かく見守ってくださり有難く思う。子どもたちの蹴ったボールが児童館横の畑の野菜を傷つけ、先生と子どもとで謝りに行くと「気にしなくていいよ」と温かく対応してくださり、野菜までたくさんもらって帰ってきたが、その近所の方の気持ちが大変嬉しかった。

→ かつて、青少年施設の運営に携わっていた時に「ストレス」が口癖で、施設内でまったくと寛いでいた子がいた事を思い出しました。児童クラブがはげきとなっていると同時に、彼らの居場所になっているのでしょうか。特に、問題行動を起こす子を上から押さえつけてしまいがちな学校・・・せめて児童クラブでは、そういった子に寄り添える居場所として機能して欲しいですね。その子の特性に寄り添うとも言えるのでしょうか・・・テストでいい点を取るための勉強では味わえない、人の温かみに触れる体験・・・まさにこれこそが「教育＝共育」ですね。

地域の小規模多機能居宅介護事業所の管理者の方が児童館にチュ

ーリップの球根をくださった。その方は地域のつながりを大切にされていて、児童館のイベントに参加してくださるなど、高齢者と子どもたちとの交流イベントなどが好評だ。地域コーディネーターや主任児童委員の方がボランティアで来て頂ける関係も出来ている。

→ 高齢者介護施設の方や地域で活動されている方との連携はどこも重視していますが、顔の見える関係性の維持は継続性が問われますよね・・・昨年まで来館者数の伸び悩みに苦しんでいた児童館が一転して増加傾向にある要因は、間違いなくこういった地道な取り組みが機能し始めている証拠ではないでしょうか？チュリップが咲く頃に、また新たなイベントが根付いていくといいですね。

社会連帯の企画は、みんなのボランティア精神の上に成り立っているもので、個人個人が損得を抜きにして、いかに楽しめるかにかかっていると思う。その点、今回の企画はやらされている感がなく、自分たちがワクワクドキドキと楽しみにしているイベントだったので負担感が少なかった。

→ 休日返上で社会連帯イベントお疲れ様でした。自分たちでいいと思った事を、様々な人たちと協力・連携し合って形にしていく・・・その達成感こそが関わった人にしか味わえない醍醐味なのではないでしょうか。やらされ感のない仕事おこし(笑)は、きっとその先にあるはず・・・そしてその達成感もさらに大きいはず！？

### 編集後記

第2弾は、社会連帯活動にこだわって編集してみました。週報や月報に目を向けると、どこも地域と連帯してる事に気付かされました・・・もっと、こういった貴重な実践に光を！！

北陸での合言葉が「最近、社連してる？」になる日も近い？

